



これから一緒に
魔砲少女を目指して
頑張りましょう



魔砲少女

エンスタ

第3話

漫画 まや〜吾郎
COMIC

きやあつ

バタン

ちよつと…
いきなり転ばない
でよね

だつてえ…

こんな靴
今まで履いたこと
なかったし…

しっかり
して

今日からあたしたち
魔砲少女
なんだからね

コーホセイだよ
お姉ちゃん

でも…本当に
なれるかな…

魔砲少女に…

平気よ

もう誰も
いなくならない

あんな魔物を
相手に…

……本当に…

皆も

シエスタも

あたしが
絶対に守るわ

うん…

私も…頑張る

ありがとう…
お姉ちゃん

お姉ちゃんを
守れるように…

魔砲少女になるね

絶対に何があっても…

二人で…
…一緒に…







なんなのよ
これは…

シエスタは何処!!
どこ

まあ
落ち着きなさい

この学院には
魔砲少女になるべく
貴族令嬢から
いなか
かたや田舎娘まで

各地から
様々な娘が
送られてきます

これは
その中で仕上がった
至高の果実を…

此度の計画に
こたび
協賛いただいた方々に
かたがた
振る舞う
秘密の宴ですよ

果実…?

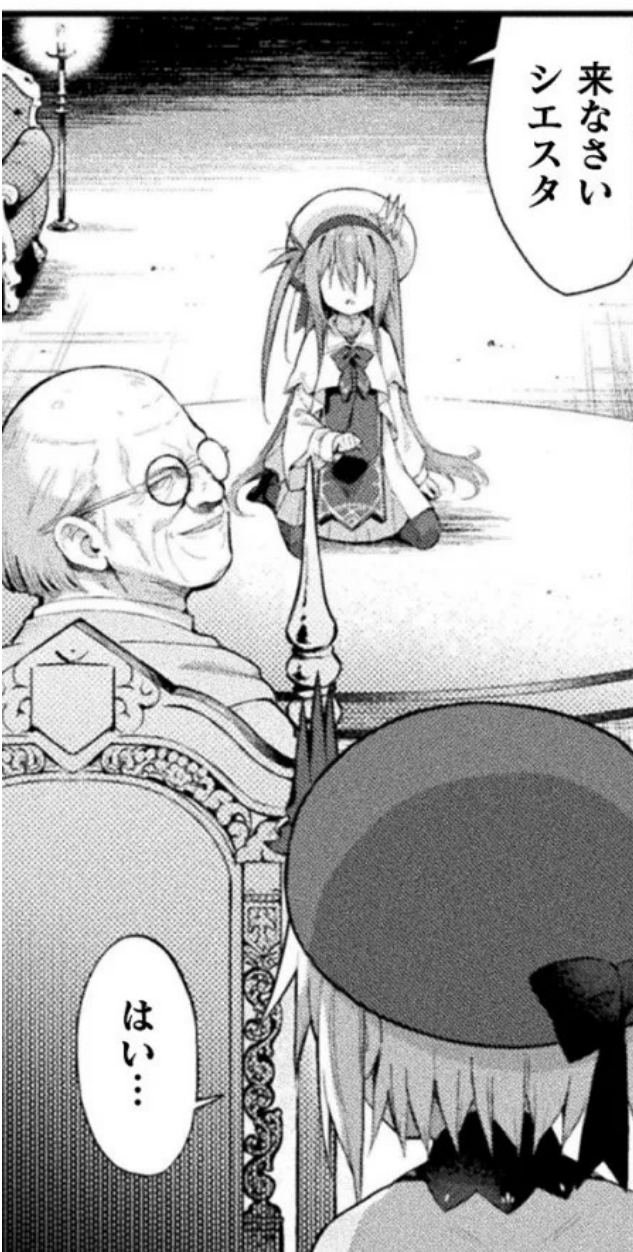


シエスタ!!



もちろん
勿論

貴女たちのこと
ですよ



来なさい
シエスタ

はい…



魔砲少女の力の源：

すなわち魔力は
愛と正義の心で
生み出される

中でも
ひと際強い魔力を
生み出すのが

心が最も揺れ動く
思春期の頃…

心身ともに
未熟な少女に
性交は劇薬です

快楽の濁流に吞まれ
性愛と恋愛の境界が
曖昧になり

アンタ
また…ッ!!

惚れた男のために
無限の強さを発揮する
愛の奴隷となる



シエスタ…
どうして…ッ

ごめんね…
お姉ちゃん…
先生が
怪我したら
いけないから…

これが
魔砲少女です

そして彼女たちの
魅力は強さだけでは
ありません



みずみず
瑞々しい身体

あどけない表情

ほんのり赤い花卉

シエスタもなれて
喜んでいますよ

魔砲少女
果実に

これを至高の果実と
言わずして
なんと言いましょう

そんなわけ
ないでしょ!!

あのね…
お姉ちゃん…

私ね…

お姉ちゃんと一緒に
魔砲少女になるために

先生に秘密の特訓を
お願いしたの…

ごめんね…

反対されると
思ったから…

お姉ちゃんに…
置いてかれたく
なかったからあ…

シエスタ…

おかげで私は
強くなれたの…

お姉ちゃんに
ないしよでこんな風に…

あ

いっぱい特訓…
してもらったの…

先生にいっぱい
触ってもらったの

おっぱいも…
おまたも…

最初は
きもちわるいって…

こんなこと
やめてって思った…

私の恥ずかしい
ところ…全部…

けど…お

頭がふわふわ
してきて…

触れたところが
あつくなくて…っ

もっといそいそ
なっちゃったのっ♡

カラダから
魔力が溢れてきてえ♡

それで…え

おまたの
なかを…っ

指でいっぱい
グリグリっして
もらったら…

すごく—



あつ♡

きもちいいの♡

あつ♡

キウウウ

おつ♡

あつ♡

せんせえ
そこお♡

おお…おふ♡

この子は本当に
優秀でしてね…

幼気であらしく
優しく健気で—

私の^{調教}特訓も儀式も
難なく受け入れ

男を^{よろこ}悦ばせる

私好みの魔砲少女に
なりました

アンタ…
なんてことを…ッ

彼女が望んだ
ことですよ

候補生は
愛と正義の心を^{そだ}育んで
卒業試験に合格
しなければならぬ

さもなければ儀式の際に
望ましくない結果に
なりますので…

本来なら貴女にも
じっくり特訓を
受けてもらうつもり
でした…

ですが計画を大分
前倒しにしないで

秘密を知られた以上
直ちに貴女への
儀式を執り行います

儀式って…

まさか…
あたしにも同じことを
するつもり!?

目を覚まして
シエスタ!!

よかった…
お姉ちゃん

これで一緒に
魔砲少女になれるね

あたしたちが
なりたかったのは
そんなのじゃないッ

無事に儀式を
完了したければ
素直に従うことです

私としても
貴女を失うのは
惜しいのですよ

あたしに
近づくなあつ!!

まったく…
本当に
貴女という人は…

シエスタ

はい…

貴女が頼りです
アーネ君を
特訓してあげなさい

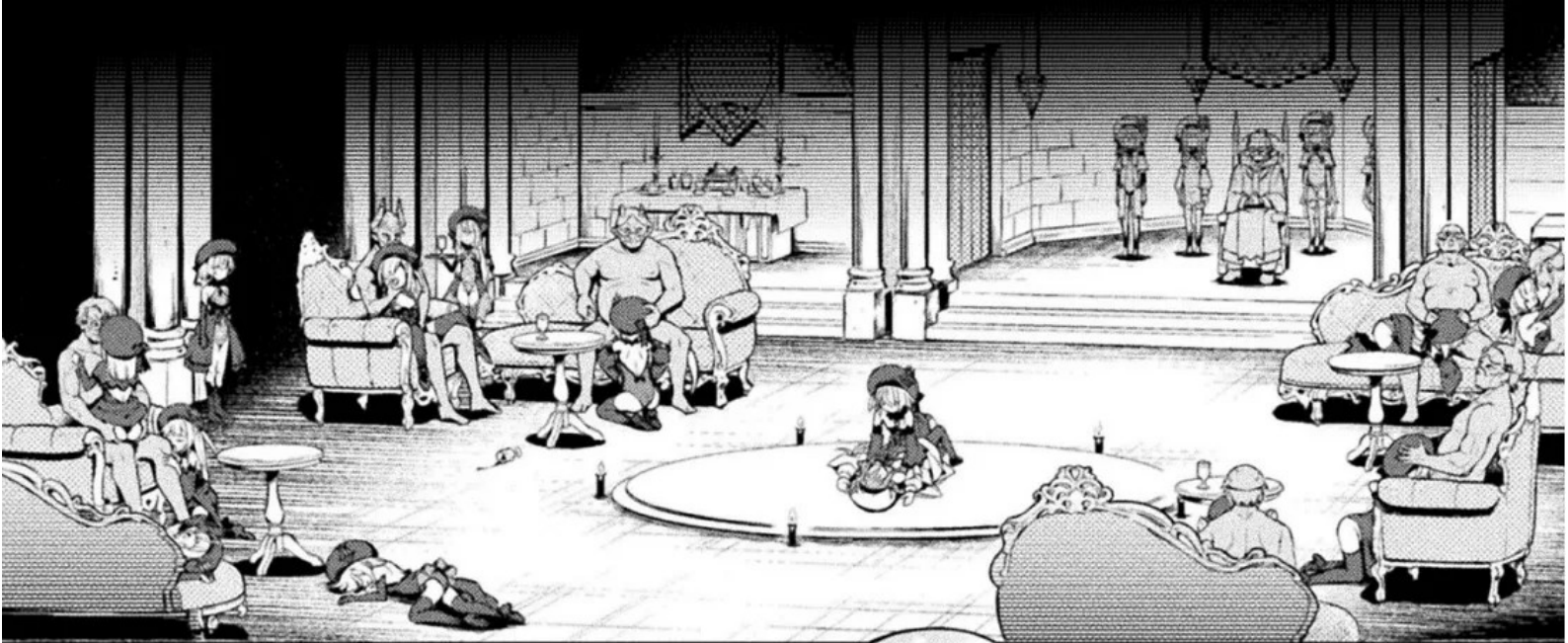
はい♥

シエスタ…

大人しくしててね
お姉ちゃん

安心して
なんにもこわいこと
なんてないから…

私がいっぱい…
きもちよくして
あげるね♥



だめ…

シエスタ…あ

お姉ちゃんにも
教えてあげるね？

女の子の
きもちいいところ…

そんなの
いらないっ!!

最初は
こうやってね？

おっぱいを
優しく触られて…



先っぽを手のひらで
こねられて…

そしたら
ムズムズしてきて

もっと…
撫でてほしいって…

撫でられた
ところが段々と
かたくなってきて…

ん…

んっ

先っぽをきゅって
してほしいって…
思っちゃうの♡



んっ

あっ

やめ…っ
シエスタ…

んっ

あ…っ!?

だめっ
まって…っ

トクッ

わあぁ

見えるっ!!

アイツに
パンツ…っ

見られちゃうっ!!

……
かわいい♡

お姉ちゃん

な…
なんで…?

んめめめっ!?

キョウウウ



先生に…

みんな
皆…

だ…めっ

お姉ちゃんの
かわいいところ

いっぱい
見てもらおう？

見るなっ

んあっ

見るなあっ



んっ

くちゅ



んん…!?



お姉ちゃん…

…？

知ってる？
お姉ちゃん…

おまたの
ぷくっとしてる
こっ…

…？

ここのまんなかを
こするとね？

すっごく…
きもちいいんだよ？

ふあっ!?

ぬれてる…♥

シエスタまって…
まってえ…

アッ

もっど…
してあげるね♥

あ…

や…あ

キス…
よかったんだ♥

うれしい…
お姉ちゃん…

スリ



なに…これ…

んっ

んっ

ちゅっ

くちゅっ

からだが…
…あつい…

びく

あたま…
…ふわふわ…

スースー

わかんなく…
…なる…

ほー

はあ

んあ…?

あっ♡

…お姉ちゃんも
…真っ白になって…

ああっ♡

おかしく…
なっちゃえっ♡

くちゅっ♡

くちゅっ♡

くちゅっ♡

くちゅっ♡



どう？
お姉ちゃん…

身体中から
魔力が溢れて…
すごいでしょう？

……
守らなきゃ…



絶対に…
シエスタを…

それでね…
いちばん
すごかったのは…



アイツを倒して…

先生の…
遅いおちんちんが
おまたの奥を
かきまわして…

シエスタを助けて…



私で
きもちよくなって
くれた証を…



いっぱい…
注いでもらう
ことなの♡

ここから逃げて…

んっ♡

んんっ♡

くほっ

くほっ

くほっ

あむ…♡

んっ♡

それから—

おねえちゃん…

お姉ちゃんも…

もっ

きもちよく

なりたいたいよね？

あれ…？

ほ

なん…で…

手が…

モゾ

かく

かく

くちゅ♡

か…
かってに…っ



安心して…

わたしたち
魔砲少女も皆…

そうなっちゃう
から…♡



だから
お姉ちゃんも
はやく…

先生の
大きな手で…

舌で

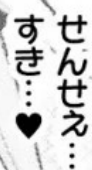
……
おちんちんで♡

いっぱい♡
いっぱい♡

きもちよく
なろう?♡

は♡







あ、
シエスタにいっぱい
ご奉仕させてください♡

シエスタにいっぱい
射精してください♡

せんせえ
おねがい♡

シエスタでいっぱい
きもちよくなって
ください♡

よく言えました
ご褒美です
たっぷりと…
膣奥で
受け止めなさい

あ…♡

んああああっ♥

きもちいいですっ
せんせえ♥♥

私でご奉仕しなきゃ
いけないのに…♥

ありがとうございます
ございます♥

ありがとうございます
ございます♥

ありがとうございます
ございます♥♥

あっ♥

だ…め

とま…てえ

ありが—







あ…ふ♡

さて…
準備も整った
ようですね

貴女のおかげです
シエスタ

それでは
最後の儀式を
行いましょう…

は…い…

せんせえ…

…びびろ♡

私たちを
ご賞味ください♡

To be continued